

教科名	芸術（音楽）	単位数	2		担当	
科目名	音楽Ⅰ	必修 選択	必修	選択	学年	1年
教科書 副教材等	MOUSA①（教育芸術社）					
選択対象者						
科目の 目標	<p>音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽分野と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。</p> <p>(3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。</p>					
身に付けさせたい資質・能力						
知識および技能	①基礎学力、②情報活用力、③傾聴力					
思考力・判断力・表現力等	④行動力、⑤コミュニケーション力、⑥キャリアプランニング力					
学びに向かう力・人間性等	⑦セルフマネジメント力、⑧協働力、⑨達成力					
1 授業内容・具体的目標	<p>(1) 表現分野では、歌唱・器楽・創作を行う。</p> <p>A 歌唱は、発声の基本を身につけ、様々な表現形態による歌唱表現に取り組む。</p> <p>B 器楽は、ギターに取り組む。楽器の特徴を理解し、ギターの基本的奏法（アポヤンド・アルアイレなど）を習得することを目指す。また、他者との調和を意識して、曲にふさわしい表現で演奏することを目指す。</p> <p>C 創作は、音や音階・音型などの特徴を活かし、4～8小節程度の楽曲を創作・編曲する。</p> <p>(2) 鑑賞分野では、教科書掲載曲や表現分野と関連した楽曲の鑑賞を行う。</p> <p>(3) 音楽理論分野では、主に楽典を中心としながら、ソルフェージュ能力や読譜能力を高める。</p>					
2 授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> 感性を働かせ、自らの興味や音楽体験に基づいて、様々な領域の音楽活動に幅広く取り組む。 音楽表現について、知覚・感受したことをペアやグループで意見交換しながら創意工夫する。 必要に応じて ICT を活用し、自分に合った練習方法を工夫しながら、基礎的な技能の習得を目指す。 					
3 評価の規準	<ul style="list-style-type: none"> 音楽の基礎的な知識・技能を身に付け、音楽表現に活かすことができる。【知識・技能】 音楽の構造や文化的・歴史的背景などを曲想と関連付け、曲の特徴を理解することができる。【知識・技能】 音楽に対して自分なりの意図や価値基準を持ち、音楽表現を工夫したり、よさや美しさを味わって聴いたりすることができる。【思考・判断・表現】 音楽の幅広い活動に主体的・協働的に取り組み、音楽文化に親しみを持ち、音楽を自らの生活と結びつけて捉えることができる。【主体的に学習に取り組む態度】 					
4 評価の方法	<p>【知識・技能】実技テスト、ワークシート（音楽理論）、創作作品（楽典や創作ツールの活用等）</p> <p>【思考・判断・表現】ワークシート（歌唱・鑑賞・創作）、創作作品（音楽表現の創意工夫）</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】授業記録、振り返りシート、その他授業態度</p> <p><成績(評定)の付け方></p> <p>3観点は均等に扱い評価します。</p>					

5 授業計画				
月	領域・単元 (時数)	学習内容	各単元における評価	身に付けさせたい 資質・能力
4	音楽オリエンテーション (1) 歌唱① (4)	音楽に関する アンケート及び発表 《本校校歌》など	1年間の授業内容・評価について理解することができる。 正しい発声で堂々と歌うことができる。 歌詞に込められた思いを感じ取り、表現に活かすことができる。	③ ①⑤ ④
5	音楽理論① (4)	ト音譜表・ヘ音譜表、音符 リズム創作・クラッピング	楽譜の基本的な読み方を理解することができる。 読譜の技能を活かしてリズムを創作し、正しいリズムで演奏することができる。 ギターの特徴を理解することができる。	① ④ ①
6	器楽① (10)	ギター《かえるのうた》など	ギターの基本的な奏法(アポヤンド・アルアイレ等)を習得し、音色の特徴を活かして表現を工夫することができる。	④ ① ④
6	音楽理論② (2)	コードネーム・和声学	他者との調和を意識して演奏できる。 コードの仕組みや書き表し方について理解できる。 和声による印象の変化を感じとり、演奏に活かすことができる。	⑤⑧ ① ④
7	鑑賞① (4)	交響詩《死の舞踏》	標題音楽について理解し、曲想と音楽の構造を結び付けて音楽を分析することができる。	②
8	歌唱② (6)	《この道》など	自分なりに音楽を評価し、よさや美しさについて他者に説明することができる。 曲にふさわしい発声を身につけ、美しい音色で歌唱できる。	③⑤ ①
9	鑑賞② (7)	オペラ《カルメン》	歌詞の内容や曲の構成から、ふさわしい歌唱表現を工夫できる。	④
10	創作 (7)	《旋律の雰囲気を変化させよう》、《演奏スタイルを変化させよう》	総合芸術における演出の工夫や音楽の役割、オペラ特有の発声・発音について理解することができる。 曲を聴いて、各登場人物の性格や心情に寄り添い、音楽表現の工夫を感じとることができる。	① ⑤
11	器楽② (12)	ギターアンサンブル	DTMの基礎的な知識・技能を身に付けることができる。 主題のリズムや速度、テクスチャを工夫し、自身の表現したいイメージの旋律に変化させることができる。 総合芸術の知識を生かして、協働的に創作表現を工夫できる。	① ④ ⑤⑧
12	音楽と社会 (1)	知的財産権について	ギター及び読譜の基本的な技能を身に付け、活用することができる。 他者との調和を意識し、曲にふさわしい表現で演奏できる。	① ⑤⑧
1	歌唱③ (7)	《蛍の光》 《見上げてごらん夜の星を》	見通しをもって粘り強く表現活動に取り組むことができる。 知的財産権の意義や仕組みについて理解し、音楽を守り発展させていくために適切な行動がとれる。	④⑨ ⑦
2	鑑賞③ (2)	能《羽衣》《道成寺》	様々な演奏形態について理解することができる。	①
3	1年間のまとめ (3)	プレゼンテーション	日本の伝統芸能特有の音楽や文化について理解することができる。 音楽の多様性を理解し、我が国の音楽文化に親しみを持つことができる。 1年間の内容を振り返り、成果をまとめ、発表することができる。 自己と音楽との関わりについて考えることができる。 根拠を持って音楽を評価し、他者に発信することができる。	⑧ ②③ ⑥ ⑤

時数合計 (70)

教科名	芸術（音楽）	単位数	2		担当	
科目名	音楽Ⅱ	必修 選択	必修	選択	学年	3年
教科書 副教材等	MOUSA②（教育芸術社）					
選択対象者	人文コース、資格教養コース					
科目の 目 標	<p>音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽分野と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができるようにする。</p> <p>(3) 主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。</p>					
身に付けさせたい資質・能力						
知識および技能	①基礎学力、②情報活用力、③傾聴力					
思考力・判断力・表現力等	④行動力、⑤コミュニケーション力、⑥キャリアプランニング力					
学びに向かう力・人間性等	⑦セルフマネジメント力、⑧協働力、⑨達成力					
1 授業内容・具体的目標	<p>(1) 表現分野では、歌唱・器楽・創作・自由表現を行う。</p> <p>A 歌唱は、音楽Ⅰで身に付けた発声の技能を生かし、様々な表現形態による歌唱表現に取り組む。</p> <p>B 器楽は、ギターに取り組む。楽器の特徴を理解し、基本的奏法を習得するとともに、他者との調和を意識して、曲にふさわしい表現で演奏することを目指す。</p> <p>C 創作は、音や音階・音型などの特徴を理解し、ICT機器を用いて4～8小節程度の楽曲を創作・編曲する。</p> <p>D 自由表現は、選曲やパート決め、練習、発表時の演出等をすべて自分たちで行う。</p> <p>(2) 鑑賞分野では、教科書掲載曲や表現分野と関連した楽曲の鑑賞を行う。</p> <p>(3) 音楽理論分野では、主に楽典を中心としながら、ソルフェージュ能力や読譜能力を高める。</p>					
2 授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> 感性を働かせ、自らの興味や体験に基づいて、様々な領域の音楽活動に幅広く取り組む。 音楽表現について、知覚・感受したことをペアやグループで意見交換しながら創意工夫する。 必要に応じてICTを活用し、自分に合った練習方法を工夫しながら、基礎的な技能の習得を目指す。 					
3 評価の規準	<ul style="list-style-type: none"> 音楽の基礎的な知識・技能を身に付け、音楽表現に活かすことができる。【知識・技能】 音楽の構造や文化的・歴史的背景などを曲想と関連付け、曲の特徴を深く理解することができる。【知識・技能】 音楽に対して自分なりの意図や価値基準を持ち、個性豊かに音楽表現を工夫したり、よさや美しさを味わって聴いたりすることができる。【思考・判断・表現】 音楽の諸活動に主体的・協働的に取り組み、音楽文化に親しみを持ち、音楽を自らの生活と結びつけて捉えることができる。【主体的に学習に取り組む態度】 					
4 評価の方法	<p>【知識・技能】実技テスト、創作作品（楽典や創作ツールの活用等）、授業時の小テスト</p> <p>【思考・判断・表現】ワークシート、創作作品（音楽表現の創意工夫）</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】授業記録、振り返りシート、その他授業態度</p> <p><成績（評定）の付け方></p> <p>3観点は均等に扱い評価します。</p>					

5 授業計画				
月	領域・単元 (時数)	学習内容	各単元における評価	身に付けさせたい 資質・能力
4	音楽オリエンテーション (1) 歌唱① (2)	音楽に関する アンケート及び発表 《本校校歌》、《蛍の光》	1年間の授業内容・評価について理解することができる。 正しい発声で美しく歌唱できる。 歌詞の内容や曲の構成から、ふさわしい歌唱表現を工夫できる。	③ ①⑤ ④
	鑑賞① (2)	オペラ《魔笛》	古典派音楽の特徴を、他の時代と比較して理解することができる。 アリアを聴き、登場人物の心情に寄り添い、音楽表現の工夫を感じ取ることができる。	② ⑤
5	音楽理論 (2)	読譜・コード進行	読譜の基礎的な技能を身に付けることができる。 各コード進行の特徴をつかみ、自分の周りにある音楽と関連付けて理解することができる。	① ⑤
	器楽① (3)	ギター (ストローク奏法) 《Just the two of us》など	ストローク奏法の技能を身に付け、旋律と合わせて演奏することができる。 各コード進行が持つイメージにふさわしい音色になるようして演奏工夫することができる。	① ④
	自由表現① (15)	セルフプロデュースによる 演奏 (学校祭)	演奏場面にふさわしい曲を演奏し、音楽を介したコミュニケーションについて理解を深めることができる。 他者との調和を意識し、個性豊かに音楽表現を工夫して演奏できる。	⑤ ④⑧
6			見通しをもって粘り強く表現活動に取り組むことができる。	⑨
7			様々な演奏形態による全体的な響きの変化を感じ取りながら、音楽表現を創意工夫できる。	④
8	歌唱② (3)	《赤とんぼ》	社会における音楽の役割を理解することができる。 演奏場面にふさわしい曲を演奏し、音楽を介したコミュニケーションについて理解を深めることができる。	⑥⑦ ⑤
9	自由表現② (15)	セルフプロデュースによる 演奏 (高齢者施設訪問)	他者との調和を意識し、個性豊かに音楽表現を工夫して演奏できる。 見通しをもって粘り強く表現活動に取り組むことができる。	④⑧ ⑨
10			日本の伝統芸能特有の音楽や文化について理解することができる。 音楽の多様性を理解し、我が国の音楽文化に親しみを持つことができる。	① ⑧
11	鑑賞② (3)	能《羽衣》《道成寺》	音楽の構造や曲の背景を理解し、他者と協働しながら曲にふさわしい音楽表現を工夫することができる。	④⑧
12	歌唱③ (5)	《正解》など	DAWの使い方、音楽の作り方の基礎的な技能を身に付けることができる。	①②
	創作 (6)	《EDMをつくろう》	様々な音色やテクスチャを使い分け、個性豊かに創作表現を工夫できる。	④
1	1年間のまとめ (3)	プレゼンテーション	1年間の内容を振り返り、成果をまとめ、発表することができる。 自己と音楽との関わりについて考えることができる。 根拠を持って音楽を評価し、他者に発信することができる。	②③ ⑥ ⑤